

# ティロル州クーフシュタイン郡における受難劇の上演と観光

——バイエルン州との連関およびヨーロッパ的展開を展望して——

山田 徹 雄

## Passionsspiele und Tourismus im Bezirk Kufstein

Tetsuo YAMADA

**要 旨**：小さな自治体が、戦争やペストによって危機に陥った際、村民の神に対する誓約という形で、村民の手で宗教劇を演ずるという事例を、エアルとティアーズについて考察した。受難劇の観衆は、大多数がドイツ、とくにバイエルン在住者であり、観光業におけるティロル州とバイエルン州との結びつきは決定的である。近年ではヨーロッパの各地で、観光のために受難劇の復活が生じ、それはユーロパッションという全ヨーロッパ的な動向にもなっている。

### 1. 問題の所在

バイエルン・ティロル領域において、イエス・キリストの受難劇を「村人」が上演することによって、観光客をグローバルに集めることが行われている。その最も有名な事例は、10年ごとに行われるオーバーアマーガウの受難劇 (Passionsspiele Oberammergau) である。

オーバーアマーガウの受難劇が当地の観光に絶大な効果をもたらしていることについては、拙著において指摘した<sup>(1)</sup>。

オーバーアマーガウの受難劇があまりにも集客力が傑出しているために、近年になればなるほど、各地で観光のための受難劇の「一種の復活」(Eine Art Wiederbelebung)<sup>(2)</sup>が生じているにもかかわらず、その影が薄く感じられる。

ティロル州クーフシュタイン郡という狭い空間においては、エアル (Erl) とティアーズ (Thiersee) という小自治体において「村民」による伝統的な受難劇上演が行われ、かつ近年では観光客を吸引する格好の事例を提供している。

本稿では、オーバーアマーガウ、エアル、ティアーズに受難劇の伝統が生まれる以前にバイエルン・ティロル領域およびその周辺領域において行われていた受難劇の空間的な広がりを確定し、それを踏まえてエアル、ティアーズの受難劇の歴史と現在を分析する。

### 2. 資料の在り方

受難劇の歴史研究するに際して、我々が利用しうるデータベースは、アウクスブルクのバイエルン歴史館 (Haus der Bayerischen Geschichte) に収められている。このデータベースは、文献学的に確認できる受難劇の上演状況を整理している。

このデータベースは、宗教劇 (Geistliche Spiele)、聖金曜日劇 (Karfreitagsspiele)、橄欖山劇 (Ölbergspiele)、復活祭劇 (Osterspiele)、受難劇 (Passionsspiele)、葬式・祝祭行列 (Prozessionen)、劇行列 (Spielprozessionen) という種類による分類を行う一方、初演の時期を、第1期 1517年以前、第2期 1517～1648年、第3期 1649～1798年、第4期 1799～1947年、第5期 1945年以降に区分する<sup>(3)</sup>。

画期設定に関する説明は、記されていないが、宗教改革の始まりとされる1517年をもって、第1期と第2期を区分

し、30年間続いたカトリックとプロテスタントによる宗教戦争に終止符が打たれたヴェストファーレン条約が締結された1648年をもって、第2期と第3期を区分している。教皇国家の崩壊をもたらしたローマ共和国が成立した1798年が第3期と第4期を画すと思われる。第5期は、第2次大戦の終結以降である。

このデータベースが作成されるきっかけとなったのは、1990年に開催された展覧会であった。

「聞け、見よ、嘆き、愛せよ」 („Hört, sehet, weint und liebt!“) ——エッタールのベネディクト派神父、フェルディナント・ロスナー (Ettaler Benediktinerpater Ferdinand Rosner) がオーバーアマーガウの受難劇のために著した1750年の「新たな受難」 (Passio Nova) のこのスローガンを、バイエルン歴史館は1990年に展覧会に名付け、その展覧会は「アルプス地方の受難劇」 (Passionsspiele im alpenländischen Raum) を扱った。このような文脈のなかで、あらゆる宗教劇、聖金曜日劇、橄欖山劇、復活祭劇、受難劇並びに葬式・祝祭行列、劇行列の上演に関する資料作成をも行われた。マンフレット・クネドリック (Manfred Knedlik) は、そのデータベースを改訂し、新たな水準にまでもたらしめた。

中世において行われていたような、宗教劇のとりわけ内容豊かな伝統は、この地域では、バロック時代にまで継承され、当時、多くの小さな村でなお、受難劇が上演されていた。一方、他の地域では宗教改革の流れのなかで、その伝統は廃止され、遙か昔のこととなった<sup>(4)</sup>。

### 3. 受難劇の上演の始まり (1517年以前)

バイエルン歴史館のデータベースで、宗教改革以前の時期に受難劇を初演した自治体をみると〔表1〕のようになる。

13世紀には、ドイツのベネディクトボイアーン (バイエルン州)、ヒンメルスガルテン修道院 (ラインラント＝プファルツ州) で始まり、14世紀には、オーストリアのフェルトキルヒ (フォアアールベルク州)、クレムスミュンスター (オーバーエスターライヒ州)、クロイツェンシュタイン (ニーダーエスターライヒ州)、ノイシュティフト・イム・シュトゥーバイタール (ティロル州)、ドイツのフランクフルト (ヘッセン州)、スイスのザンクト・ガレン (ザンクト・ガレン州) へと広まっていった。

〔表1〕に掲出したゲマインデ (基礎自治体) のなかで、ラッテンベルクはクーフシュタイン郡にある。同地では、1512年に受難劇の上演が開始されたが、18世紀に中止となったことが確認されている<sup>(5)</sup>。

これを地域別に分類したのが〔表2〕である。ドイツ全体で13自治体、オーストリアが8自治体、スイス7自治体、イタリア4自治体、チェコ1自治体となっている。イタリアはすべて「南ティロル」の自治体で、ドイツ語圏である。

ドイツでは南部および西南部、オーストリアではティロル州が多数を占めている。

### 4. クーフシュタイン郡と受難劇

受難劇はイエスの苦難、死、復活を聴衆に具象的に表現し、心を動かそうとしている。このような形の表現は、ティロル地域、例えばボーツェン (ボルツァーノ)、シュテルツィング (ヴィピターノ) において古い伝統をもち、クーフシュタイン郡の自治体、エアルやティアーゼーにおいては、多数の住民の協力のもとで今にいたるまで継承されている<sup>(6)</sup>。

クーフシュタイン郡において文献上確認されている受難劇上演の歴史は、1512年におけるラッテンベルク受難劇に始まる。(〔表1〕参照)

以下、エアルとティアーゼーの受難劇について、その歴史と集客について分析をすすめる。

#### 4.1.1. ゲマインデ・エアル

バイエルン州と接するエアルの人口 (2017年1月1日) は、1,548人であり、そのうち20%にあたる309人が外国人である<sup>(7)</sup>。

エアルの最寄鉄道駅は、エアルからイン川を渡り国境を越えたDBのオーバーアウドルフ (Oberaudorf)、即ち、国境を越えたドイツ側であり、クーフシュタイン駅からローゼンハイムに向かう路線で2つ目の駅である。オーバーアウドルフ駅は、Google Mapによると、エアルから徒歩で3.9km、49分、車で6.7km、9分のところにある。

〔表1〕 1517年以前に上演が開始された受難劇

ゲマインデ	地域	上演時期
アルスフェルト (Alsfeld)	ドイツ・ヘッセン州	15世紀～?
ベネディクトボイアーン (Benediktbeuern)	ドイツ・バイエルン州	13世紀第1四半期～?
ボルツァーノ (Bolzano)	イタリア・トレンティーノ＝アルト・アディジェ州	1495年～?
カルフ (Calw)	ドイツ・バーデン・ヴュルテンベルク州	1407年～?
カヴァレーゼ (Cavalese)	イタリア・トレンティーノ＝アルト・アディジェ州	1514年
コーブルク (Coburg)	ドイツ・バイエルン州	1481年～?
ヘブ (Cheb)	チェコ・カルロヴィ・ヴァリ州	15世紀～1551年
フェルトキルヒ (Feldkirch)	オーストリア・フォアアールベルク州	1380年～?
フランクフルト (Frankfurt)	ドイツ・ヘッセン州	(1) 14世紀第2四半期～? (2) 1493年～? (3) 14世紀～? (注1)
フリブール (Fribourg)	スイス・フリブール州	1442年～?
フリートベルク (Friedberg)	ドイツ・ヘッセン州	15世紀～?
フリッツラー (Fritzlar)	ドイツ・ヘッセン州	15世紀第3四半期～?
ゲイスリンゲン (Geislingen an der Steige)	ドイツ・バーデン・ヴュルテンベルク州	1514年～?
ハイデルベルク (Heidelberg)	ドイツ・バーデン＝ヴュルテンベルク州	1514年～?
ヒンメルスガルテン修道院 (Kloster Himmelgarten)	ドイツ・ラインラント＝プファルツ州	13世紀～?
クレムスミュンスター (Kremsmünster)	オーストリア・オーバーエスターライヒ州	14世紀～?
クロイツェンシュタイン (Kreuzenstein)	オーストリア・ニーダーエスターライヒ州	14世紀～?
ローザンヌ (Lausanne)	スイス・ヴォー州	1453年～?
ルツェルン (Luzern)	スイス・ルツェルン州	15世紀第3四半期～1616年
マールブルク (Marburg)	ドイツ・ヘッセン州	1501～1507年
メミンゲン (Memmingen)	ドイツ・バイエルン州	1460～1616年
ノイシュティフト・イム・シュトゥーバイタル (Neustift im Stubaital)	オーストリア・ティロル州	1391年～?
ラッテンベルク (Rattenberg)	オーストリア・ティロル州	1512年～?
シャーフハウゼン (Schaffhausen)	スイス・シャーフハウゼン州	1414年～?
シュヴァーツ (Schwaz)	オーストリア・ティロル州	1509～1764年
ザンクト・ガレン (St. Gallen)	スイス・ザンクト・ガレン州	14世紀前半～?
ヴィピテーノ (Vipiteno)	イタリア・トレンティーノ＝アルト・アディジェ州	(1) 1486年～? (2) 1496年～? (3) 1514年～? (4) 1455年～1798年 (5) 1420年～1580年 (6) 15世紀～? (7) 16世紀前半～? (注2)
トレント (Trento)	トレンティーノ＝アルト・アディジェ州	1514年～1514年
フィラッハ (Villach)	オーストリア・ケルンテン州	15世紀第4四半期～?
フィリンゲン (Villingen) / いわゆるドナウエッシンゲン (sog. Donaueschingen) 受難劇 (注3)	ドイツ・バーデン・ヴュルテンベルク州	15世紀後半～?
ウィーン (Wien)	ウィーン都市州	14世紀第1四半期～?
ヴァンタートゥール (Winterthur)	スイス・チューリヒ州	1470年～?
ツアツァッハ (Zurzach)	スイス・アールガウ州	1494年～?

(注1) フランクフルト (アム・マイン) については、3系列の受難劇初演が記載されている。それぞれの出典は、以下のように記されている。  
 (1) Neumann, B., *Geistliches Schauspiel*, 1987; Kindermann, h., *Theatergeschichte Europas*, 1.Bde, Salzburg, 1957; Bergmann, R., *Katalog der deutschsprachigen geistlichen Spiel*, 1986; Steinbach, R., *Die deutsche Oster- und Passionsspiele im MA*, 1970  
 (2) Neumann, B., *Geistliches Schauspiel*, 1987; Bergmann, R., *Katalog der deutschsprachigen geistlichen Spiel*, 1986; Froning, R., *Das Drama des Mittelalters*. II. Passionsspiele, Stuttgart, o.J., Nachdruck Darmstadt, 1964  
 (3) Frankfurt am Main, Stadt- und Universitätsbibliothek, Ms. Fragm. Germ. III 6  
 (注2) ヴィピテーノについては、7系列の受難劇初演が記載され、それぞれの出典が記載されているが、ここでは省略する。  
 (注3) 「ドナウエッシンゲンの受難劇」(Donaueschinger Passionsspiel) は、15世紀におけるフィリンゲン発の資料に記載されている。この点については、以下の文献を参照。  
 ・Eduard Hartl (Hrsg.): *Das Donaueschinger Passionsspiel*. Mit Einleitung und Anmerkungen auf Grund der Handschrift. (= Deutsche Literatur. Reihe Drama des Mittelalters; Bd. 4 / Passionsspiele; Bd. 2). Reclam, Leipzig 1942  
 ・Georg Dinges: *Untersuchungen zum Donaueschinger Passionsspiel*. (= Germanistische Abhandlungen; H. 35). Marcus, Breslau 1910  
 ・Georg Dinges, *Untersuchungen zum Donaueschinger Passionsspiel*, Taschenbuch - 2001; Reprint: Hildesheim 1977. (2001)

(典拠) HBG, Augsburg 1997

〔表2〕 1517年以前に上演が開始された受難劇の地域分布

ドイツ	ヘッセン州	アルスフェルト フランクフルト(マイン) フリートベルク フリッツラー マールブルク
	バイエルン州	ベネディクトボイアーン コーブルク メミンゲン
	バーデン・ヴュルテンベルク州	カルフ ガイスリンゲン ハイデルベルク フィリンゲン
	ラインラント＝プファルツ州	ヒンメルスガルテン 修道院
オーストリア	フォアアールベルク州	フェルトキルヒ
	ティロル州	ノイシュティフト・イム・シュトゥーバイタール ラッテンベルク シュヴァーツ
	オーバーエスターライヒ州	クレムスミュンスター
	ニーダーエスターライヒ州	クロイツェンシュタイン
	ケルンテン州	フィラッハ
ウィーン州	ウィーン	
イタリア	トレンティーノ＝アルト・アディジェ州	ボルツァーノ カヴァレーゼ ヴィピテーノ トレント
スイス	フリブール州	フリブール
	ヴォー州	ローザンヌ
	ルツェルン州	ルツェルン
	シャーフハウゼン州	シャーフハウゼン
	ザンクト・ガレン州	ザンクト・ガレン
	チューリヒ州	ヴァンタートゥール
アールガウ州	ツアツァッハ	
チェコ	カルロヴィ・ヴァリ州	ヘブ

(典拠)〔表1〕を基に作成。

#### 4.1.2. エアル受難劇の歴史

ミュンヘン在住者(複数)が1613年に初めてアルトエッティング(Altötting)へ巡礼に向かった際、エアルの円形劇場(in der Scheiben)で復活祭劇を見たという言い伝えをもって、エアルの受難劇の歴史は始まる<sup>(8)</sup>。

16世紀の信仰をめぐる争いの後に、再び強くなったカトリック諸国において広まった宗教的な感動の時代に、ペストと戦争に対する神のご加護への感謝として、エアルの受難劇が上演されたのは間違いない<sup>(9)</sup>。

巡礼の目的は、現在までも続くアルトエッティング巡礼、すなわち、「恵みの礼拝堂」(Gnadenkapelle)にあるイエスを抱く聖母像、「黒い聖母」(schwarze Madonna)を拝むことであった<sup>(10)</sup>。

教皇ベネディクト16世は、2006年9月11日、聖母巡礼地アルトエッティングへ向かい、説教ミサを行っている<sup>(11)</sup>。このことから、巡礼地としてのアルトエッティングの重要性は、現在においても確認できる。

エアルの受難劇は、17世紀、戦争とペストの時代における誓約(ein Gelübde in Kriegs- und Pestzeiten)を通じて発生したのである。

1703年と1743年には教会が戦禍に巻き込まれ焼失した。教会とともにそこに備えられていた演劇の道具一式も焼失したのである。1809年には、村全体が焼け落ちた。エアルの住民は村を再建し、劇場を新たに建設し、1868年から1933年まで、同じシナリオで劇を上演した<sup>(12)</sup>。

1868年に制作された脚本および1933年に至るエアル受難劇の歴史については、歴史・民俗学者であるアントン・デー



〔地図1〕 アルトエッティング  
(典拠) Altötting, Wallfahrt und Tourismus

ラーの編纂した『エアルの受難劇台本』(Dörrer, Anton, *Das Erler Passionsbuch*, Erl, 1922)に詳しく説明されている<sup>(13)</sup>。

当初、受難劇は戸外の屋根のある空間で、そののち、ビール醸造所で、1858年からはおよそ500名を収容する小規模の劇場で上演されたのち、1912年に初めて1500名を収容し、16万クローネで設置されたあたらしい受難劇劇場で上演された。1932年には、39回の上演が行われ、満足のいく成果を生み出した。

しかし、1933年には、大多数の観客が来ていたドイツ帝国において政治的な転換点を迎えた。国家社会主義者が政権に就いたのである。ドイツ人にとって外国へ、エアル旅行するのは1,000マルク („Tausend-Mark-Sperre“)の壁によって困難になった。

1933年の受難劇の第3回目の上演に際して、観客席はがらがら (gähnende Leere) であった。公演を中断し、秋に再開する決定がなされた。しかしそうとはならぬ運命であった。1933年7月18日～19日の夜半、大きな火災が劇場を焼失させ、それとともに公演に必要なものを焼き払った。放火犯の仕業であった。政治状況の圧力がこれに加わった。1938年にはオーストリアは大ドイツ帝国の一部となり、ナチスの大管区長 (Gauleiter)、ホーファー (Hofer) は、エアルの教区司祭に簡潔、明瞭に伝えた。国家社会主義者がいる限り、もはや受難劇は存在しない、と。1938年9月、エアル受難劇協会は、破産を申請した<sup>(14)</sup>。

1946年、それまで禁止されていた受難劇が再開され、出演者が新たに編成された。1955年にはロベルト・シューラー (Robert Schuller) の新しい建設設計図をもとに、新劇場を実現する決定をした。村と農民が土地と材木を提供し、エアルの人々は貸付契約に署名した。戦後の厳しい経済状態に際してこのことが行われたのである<sup>(15)</sup>。

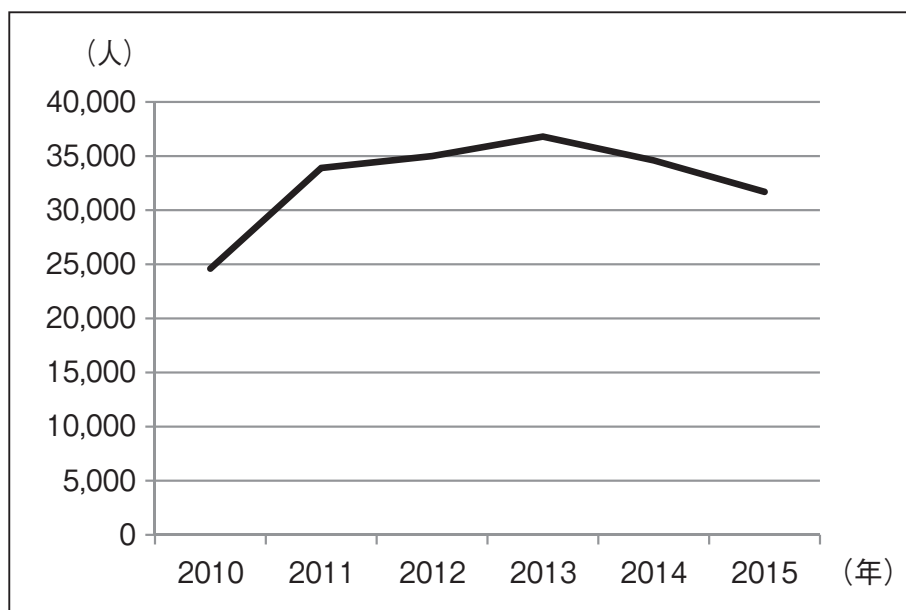
1959年6月14日、新しい受難劇劇場がお披露目された。受難劇は、エルンスト・アウアーの演出、詩人マリア・ルイーゼ・ムーメルターの脚本、ヨハネス・ハフナー教授の音楽で上演された。それ以降、エアルの受難劇は、1960年、1961年、1963年、1968年、1973年、1979年、1985年、1991年、1997年、2002年、2008年に上演され、6年ごとの周期が定着するに至った<sup>(16)</sup>。

2013年には、400周年記念として、フェリックス・ミッテラー (Felix Mitterer) による新しい脚本、マルクス・プラットラー (Markus Plattner) による監督で行われた<sup>(17)</sup>。

1998年からは、受難劇が上演されない年 (Zwischenjahren) の夏期には、エアル・ティロル祝祭 (Tiroler Festspiele Erl) としてオペラ上演とオーケストラコンサートが、グスタフ・クーン教授 (Prof. Dr. Gustav Kuhn) の指揮のもとで行われるようになった<sup>(18)</sup>。

世界的に著名な指揮者を招くことによって、初年度には、1万2千人、2015年には、1万8千人の聴衆を集めた。

さらに、2012年の末から2013年の年始にかけてエアル冬期祝祭 (Winter Festspiele in Erl) が初めて開催され、年間を通して集客が実現した<sup>(19)</sup>。



〔図1〕 エアルにおける宿泊者数の推移

(典拠) Erl〔2016〕

〔表3〕 2013年観光年度における観光客の宿泊件数

国内起点		3,445
国外起点		32,063
	ドイツ起点	24,125
	イタリア起点	1,486
	ポーランド起点	1,059
	ロシア起点	136

(典拠) Land Tirol〔2013〕

#### 4.1.3. エアル受難劇と集客

〔図1〕は、ゲマインデ・エアルにおける宿泊者数の推移を表している。受難劇が上演された2013年が極大となっているが、とくに突出しているわけではない。受難劇の上演されない年に、ティロル祝典劇が有名な指揮者のもとで上演されていることも関係しているであろう。

次に、エアルの受難劇の観客がどこから来ているかを、〔表3〕で確認しよう。受難劇の上演年である2013観光年度における観光客の宿泊件数は、ドイツを起点とするものが全体の68%を占めていることがわかる。

#### 4.2. ティアーゼー受難劇

エアルの受難劇と並んで有名な受難劇の上演自治体はティアーゼーである<sup>(20)</sup>。クーフシュタイン郡ティアーゼーは、人口、2,989人(2017年1月1日)のバイエルン州との境にある小村である<sup>(21)</sup>。

##### 4.2.1. ティアーゼー受難劇の歴史

ティアーゼー受難劇は、エアルの受難劇と交互に6年ごとに、上演されている。ティアーゼー住民によって催される受難劇の上演は、1799年の四旬節に始まった。かれらの谷から戦争の苦難を追い払うために、神への誓約として始まった。当時は毎年、開催されていたことが伝えられている。第二次大戦による中断を経て、1957年から定期的開催されるようになった<sup>(22)</sup>。

1854年までは野外で受難劇が行われていた<sup>(23)</sup>。700名を収容する受難劇の劇場は、1926年に湖の近くに建設され、今日に至っている<sup>(24)</sup>。

〔表4〕 2016観光年度ティアーズーにおける宿泊件数

国内起点		19,462
国外起点		188,549
	ドイツ起点	134,176
	オランダ起点	21,843
	イタリア起点	7,678
	ベルギー起点	3,894
	イギリス起点	3,690

(典拠) Land Tirol [2016]

#### 4.2.2. ティアーズー受難劇の集客

2016年ティアーズー受難劇について『ティローラー・ターゲスツァイツング』は、「この素人芝居におよそ1万人の訪問者があり、今回も250人の住民が名誉として(無報酬で)参加している。」(Etwa 10,000 Besucher verfolgten das Laienspiel, an dem sich auch dismal wieder 250 Thierseer ehrenamtlich beteiligen werden)と伝えている<sup>(25)</sup>。

ティアーズー受難劇の観客はどこから来たのであろうか? これを推定するために、ティアーズーにおいて受難劇が上演された、2016観光年における宿泊者の起点国を参考にする。

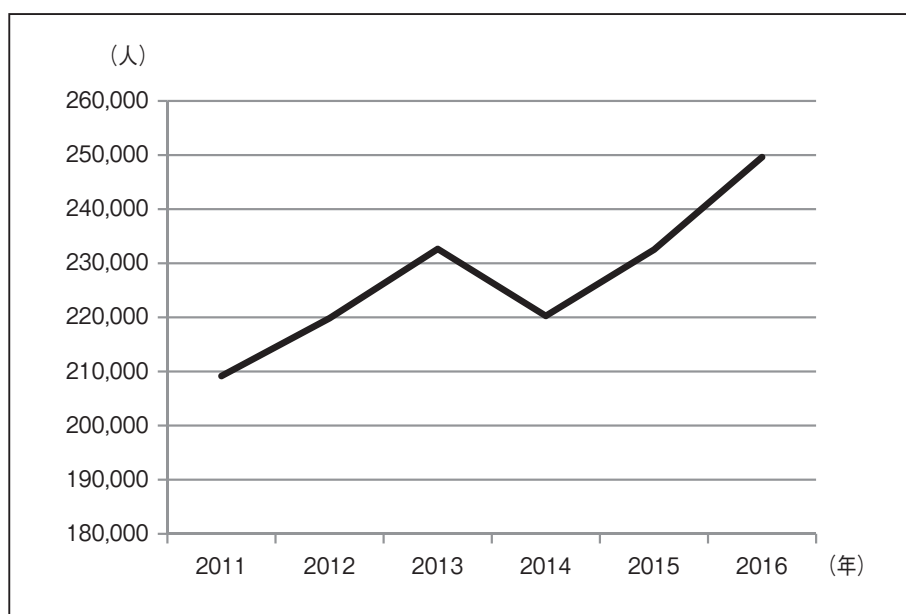
〔表4〕に示すように、ドイツ起点の比率が67%を占めている。この傾向は、エアルの場合と相似的である。また、10.9%を占めるオランダ起点比率は、国内のそれを上回っている。

#### 4.3. クーフシュタイン郡における受難劇上演の観光効果

このように、クーフシュタイン郡には、2つの受難劇上演自治体が存在する。エアル受難劇(2013年)ティアーズー受難劇(2016年)の地域観光への影響を考察するために、郡内の観光連合クーフシュタイナーラント全体としての集客を分析する。

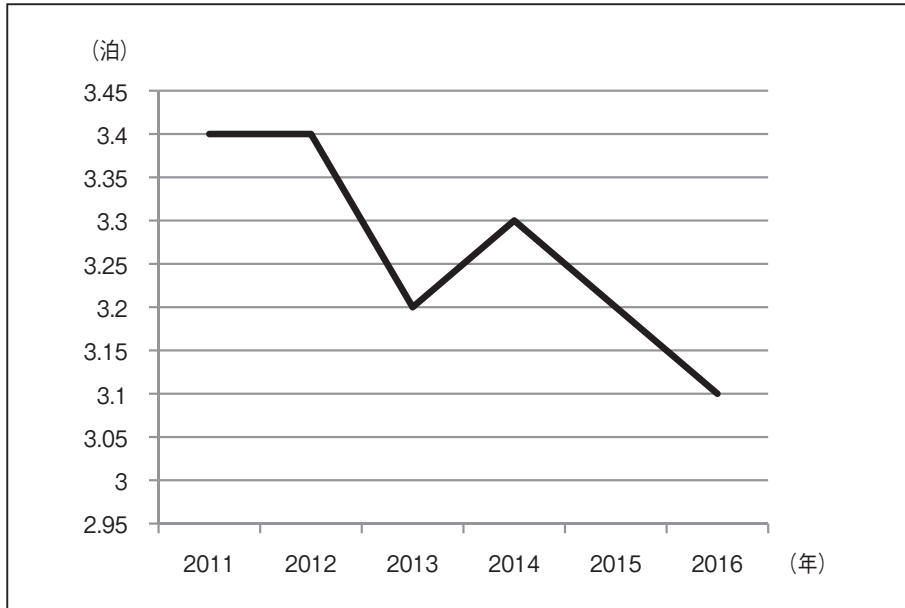
観光連合クーフシュタイナーラント(Tourismusverband Kufsteinerland)には、郡長所在地であるクーフシュタイン市の他、エアル、ティアーズーなど9の基礎自治体が所属している<sup>(26)</sup>。

〔図2〕によると、受難劇上演年である、2013年および2016年に同地域内における宿泊者が増加していることが確認できる。



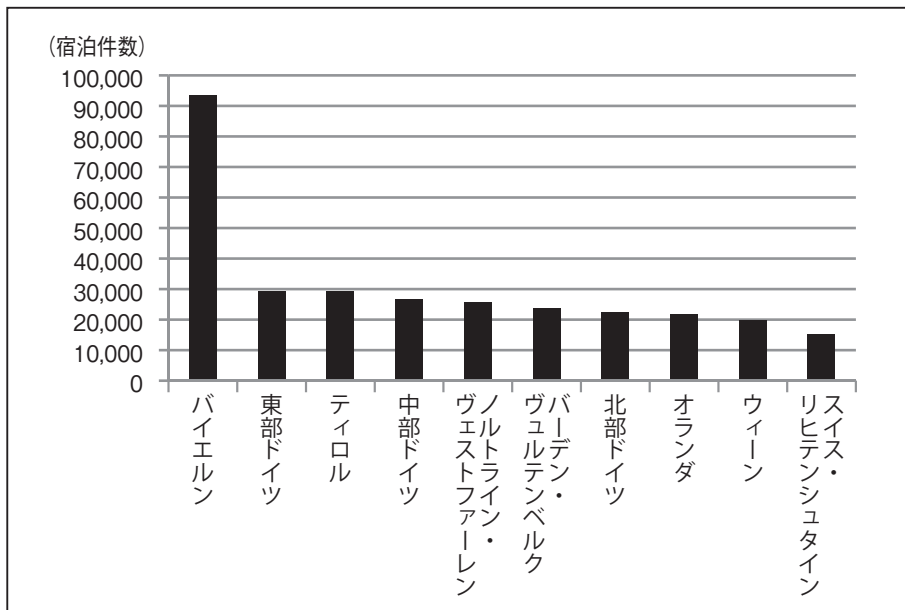
〔図2〕 クーフシュターナーラントにおける宿泊者の動向

(典拠) Kufsteinerland [2017], p.2より作成



〔図3〕 クーフシュターナーラントにおける宿泊者の平均宿泊期間

(典拠) Kufsteinerland〔2017〕, p.2より作成



〔図4〕 クーフシュタイナーラントにおける宿泊者の起点(2016年夏季 宿泊件数基準)

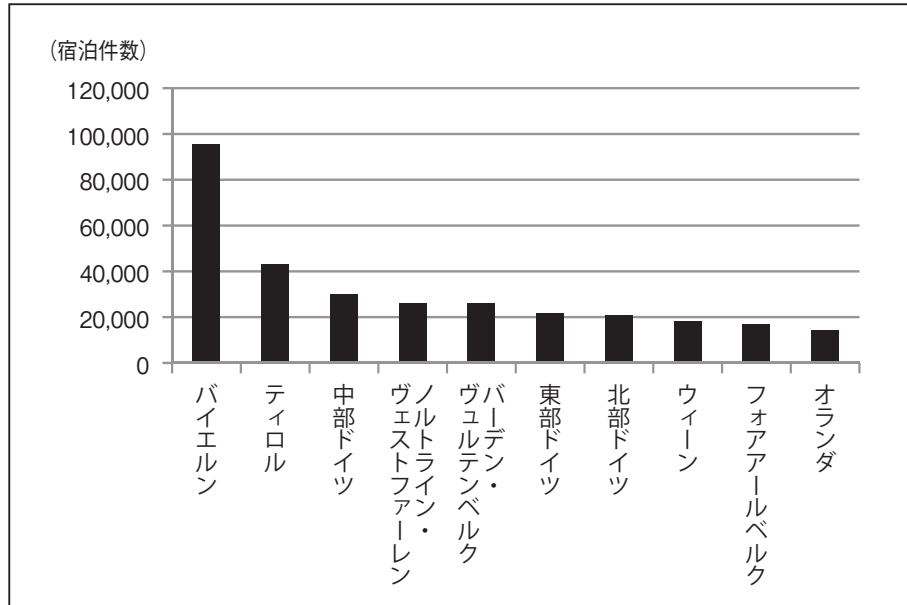
(典拠) Kufsteinerland〔2017〕, p.7より作成

これとトレードオフの関係にあるのが、宿泊者の平均宿泊期間である。(〔図3〕参照) 受難劇上演年には、宿泊期間が短期化する。同様の傾向は、オーバーアマーガウにおいても観察されており、長期に滞在するリピーターが受難劇上演年を回避するものと考えられている<sup>(27)</sup>。

〔図4〕は、ティアーズーにおいて受難劇が上演された2016年夏季の宿泊状況を起点地域別にみたものである。圧倒的多数を占めるのは州境を越えたバイエルン居住者である。地元ティロル州から訪問する比率は、東部ドイツをも下回っている。クーフシュタイン郡観光にとって、ドイツの重要性、特にバイエルンの重要性は無視しえない。

比較のために受難劇が開催されない年度における宿泊者の起点地域を〔図5〕に示した。バイエルンからの旅行者が最も多数である点は、変化はないが、地元ティロル州からの観光客が比較的多いことが分かる。





〔図5〕 クーフシュタイナーラントにおける宿泊者の起點 (2017年夏季 宿泊件数基準)  
 (典拠) Kufsteinerland [2018], p.7より作成

## 5. 展望

近年、ヨーロッパ規模における受難劇の組織化の試みがなされている。これを「ユーロパッション」(EUROPASSION) ラテン語表記「パシオン・ドミニ・エウロペ」(Passion Domini Europe)と呼んでいる<sup>(28)</sup>。

### 5.1. ユーロパッション成立史

東西ヨーロッパの受難劇上演団体を結ぶ組織を形成しようという考え方は、ほぼ30年前に始まり、ユーロパッションの設立 (la cause de l'Europassion) のために精力的な努力をしてきたのは、パリにあるメニルモンタン劇場のモリス・クロ (Maurice Clos) であった<sup>(29)</sup>。

以下の記述は、同組織のホームページに掲載されている L'histoire de l'Europassion (Passion Domini Europe, L'histoire de l'Europassion, in interrete sub: <http://www.europassion.net/>, 21.11.2018) による。

1982年に、受難劇の上演地であるスペインのエスパレグエラにおいて、受難劇上演自治体の会合が開催され、フランスからルデアック、ナンシー、マズヴォーの代表、スペインからウルデコナ、オレサ・デ・モントセラト、エスパレグエラの代表が会合した。ここにおいて、諸国の受難劇上演地域の上団体を設立する考え (la volonté de fondation d'une association international) が取り上げられた。

1984年に10自治体の代表が公式にフランスのルデアックに集まり、国際団体の名称を「ユーロパッション」(EUROPASSION) と称することを決定した<sup>(30)</sup>。

1989年、フランスのルデアック受難劇75周年に際して、フランスとスペインの16団体の代表が集まり、ユーロパッションの目的は、「ヨーロッパにおける受難劇の統一モデル」(une seule et unique manière de représenter la Passion en Europe) を求めるのではなく、「文化的な豊かさと多様性」(la richesse culturelle et la diversité de ce patrimoine) を求めることであるという合意を得た。

1990年には、マズヴォー会議に初めて、ドイツの団体が招かれ、エティッヒハイム会議にオーストリアの団体が招待された。

1992年にメニルモンタン (パリ) 会議に、東欧諸国 (ポーランド、ハンガリー、チェコ、ルーマニア) の団体が参加した。かれらは、共産圏にあって失われた受難劇の伝統を復活させることを願っていた。

〔表5〕 ユーロパッション成立史

年度	事項
1982年	エスパレグエラ（スペイン）に受難劇上演自治体（フランス3自治体、スペイン3自治体）が集まり、受難劇上演地域の上部団体を設立することを計画。
1984年	ルデアック（フランス）にスペイン、フランスの10自治体が集まり、国際団体の名称を「ユーロパッション」（EUROPASSION）、ラテン語表記「パシオン・ドミニ・エウロペ」（Passion Domini Europe）とすることを決定。
1989年	ルデアック受難劇75周年に際して、フランスとスペインの16団体の代表が集まり、ユーロパッションの設立目的を決定。「ヨーロッパにおける受難劇の統一モデル」（une seule et unique manière de représenter la Passion en Europe）を求めるのではなく、「文化的な豊かさと多様性」（la richesse culturelle et la diversité de ce patrimoine）を求める。
1990年	マズヴォー会議に初めて、ドイツの団体が招かれた。 エティッヒハイム会議にオーストリアの団体が招待された。
1992年	メニルモンタン（パリ）会議に、東欧諸国（ポーランド、ハンガリー、チェコ、ルーマニア）団体が参加した。
1995年	リニー会議において、12か国27団体の代表が集まり、ヨーロッパの受難劇開催地の連合体として、ユーロパッションを正式に設立することが決定され、またその定款が承認された。

（典拠）PDE, L'histoireより作成。

## 5.2. ユーロパッションの目的

1989年の合意を得たユーロパッションの目的は、統一性ではなく多様性を構成団体に求めるものであった。これを踏まえ、1996年にオーストリアのアンクト・マルガレーテンに12か国、34団体の代表が集まり、「定款」（les statuts de l'Europassion）を定め、組織目標を明確にした<sup>31)</sup>。

その定款（〔資料1〕参照）が示しているように、キリスト教の土壌を共通基盤として構成団体間に友好関係を促すことが、組織の目標である。

〔資料1〕 ユーロパッション連合の定款

<p>ユーロパッションの目標（les objectifs de l'Europassion）は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受難劇を演じることによってキリストの福音を伝えること。</li> <li>構成団体の間に文化的・人間的な関係を促すこと。</li> <li>構成団体の間で情報交換すること、個々の構成団体の表現の多様性を損なうことなく、（受難の解釈という）基本的なテーマを議論すること</li> <li>叙述の中心がキリストの受難であるあらゆる形態の宗教的もしくは秘跡の演劇を助成すること。</li> <li>個々の構成団体の間に友好と連帯関係を創り出すこと。</li> </ul>
--

（典拠）PDE, L'histoire

## 5.3. ユーロパッションの参加団体

ユーロパッションに参加している自治体を〔表6〕に示した。国別にみるとイタリアが19団体で最も多く、次いでドイツの18団体（うち、バイエルン6団体）、オーストリア9団体、フランス7団体、ベルギーおよびポーランド5団体、スペイン4団体となっている。

## 6. 小括

小さな自治体が、戦争やペストによって危機に陥った際、村民の神に対する誓約という形で、村民の手で宗教劇を演ずるという事例を、エアルトティアーゼーについて考察した。

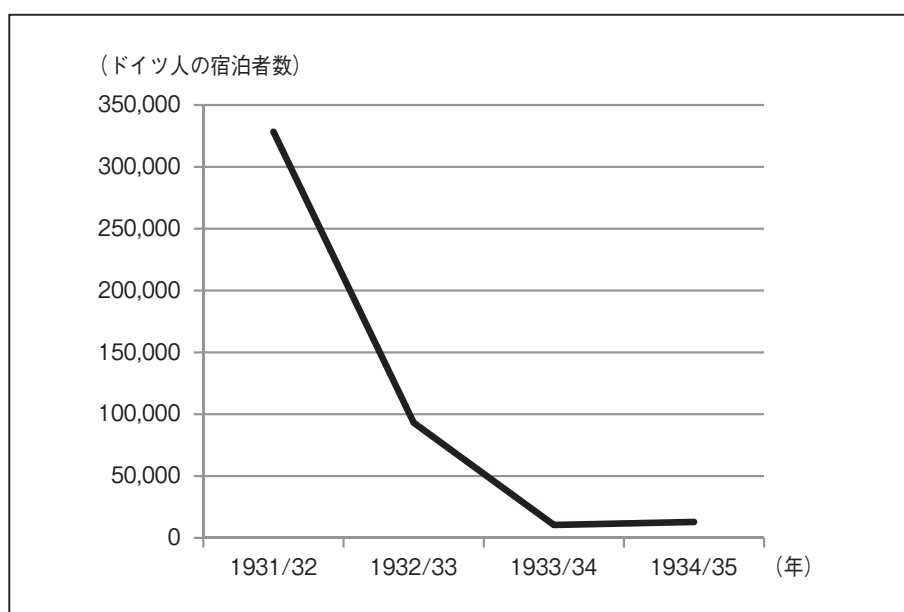
これらの村は、受難劇上演年には、普段、訪れることのない（リピーターではない）観光客を集めている。この点で、オーバーアマウガウの事例と相似的である。

ヨーロッパの各地で、観光のために受難劇の復活が生じ、それはユーロパッションという全ヨーロッパ的な動向にも

〔表6〕 ユーロパッション参加団体の自治体

オーストリア	ドルフシュテッテン (ニーダーエスターライヒ州)、アイベスタール (ニーダーエスターライヒ州)、キルヒシュラーク・イン・デア・ブークリゲン・ヴェルト (ニーダーエスターライヒ州)、エアル (ティロル州)、ティアーゼー (ティロル州)、フェルトキルヒェン・バイ・グラーツ (シュタイヤーマルク州)、ザンクト・ゲオルゲン (シュタイヤーマルク州)、メトマツハ (オーバーエスターライヒ州)、ザンクト・マルガレーテン・イム・ブルゲンラント (ブルゲンラント州)
ベルギー	ケルミス、リニー、マリーケルケ、シェーンベルク、シブレ
スイス	メンドリシオ
チェコ	ホジツェ・ナ・シュマヴィエ
ドイツ	アウエルスマッハー (ザールラント州)、クロストヴィッツ (ザクセン州)、ツショルラウ (ザクセン州)、デイルゲンハイム (バーデン＝ヴュルテンベルク州)、エティッヒハイム (バーデン＝ヴュルテンベルク州)、エッパーツハウゼン (ヘッセン州)、ザルミュンスター (ヘッセン州)、ハッレンベルク (ノルトライン＝ヴェストファーレン州)、リッペタール (ノルトライン＝ヴェストファーレン州)、ケムナート (バイエルン州)、ノイマルクト (バイエルン州)、オーバーアマーガウ (バイエルン州)、ゾンマースドルフ (バイエルン州)、ティルシェンロイト (バイエルン州)、ヴァール (バイエルン州)、キュルシュテット (テューリンゲン州)、リーデン／アイフェル (ラインラント・プファルツ州)、ヴィントリッヒ／モーゼル (ラインラント・プファルツ州)
スペイン	エスパラダエラ、モンセラート、リオゴルド、ウルデコナ
フランス	アミアン、ルデアック、マズヴォー、ナンシー、パリ・メニルモンタン、サント＝パザンヌ、チュラン
イギリス	プール
クロアチア	ザグレブ
ハンガリー	ブダエルシュ、ケチケメート、マニャルボラーニュ
イタリア	バリーレ、カルタニッセッタ、カンティアーノ、チャンチャーナ、チコニコ・デ・ファガーニャ、エルト・エ・カツソ、グラッシナ、グッピオ、イエラーゴ・コン・オラーゴ、リッツァーノ、マエンツァ、ネットゥーノ、オーリア、ボーヴェ・デル・グラッパ、クアローナ、ロマニャーノ・セージア、セツツェ、ソルデーヴォロ、テッラノーヴァ・ダ・シーバリ
オランダ	テーゲレン
ポーランド	ブイドゴシュチュ、チェシン、カルヴァリア・ゼブジドフスカ、ウォブジェニツァ、ポズナン
ポルトガル	フェレイラ・ド・ゼッゼレ
ルーマニア	ミエルクレア＝チュク、ヴラヒツァ
スロベニア	シュコーフィア・ロカ

(典拠) PDE, Pays



〔図7〕 ティロル州におけるドイツ人宿泊者数の動向

(典拠) Mayrhober [2010] p.108より作成

なっている。フランス人の提唱に始まり、ドイツがそれに包摂されるというこの動きは、ロベール・シューマンの提唱に始まりEUに至るプロセスを想起させる。

かつて私は、バイエルン州とティロル州に跨る地域を連続した観光空間であると指摘し<sup>(32)</sup>、ティロル州の観光がドイツ人に依存していることを検証した<sup>(33)</sup>。

ナチス政権が、ドイツからオーストリアに出国するドイツ人に1,000ライヒスマルクの課税を行ったのは、なによりも、観光業に依存するオーストリア経済の弱体化を企図したものであり<sup>(34)</sup>、その効果は定量的にも確認されている。[図7]から明らかなように、戦間期においてティロル州の観光業はドイツ人に依存していた。この傾向は現在においても不変である。

なお、この出国税の課税から逃れる手段として、宿泊を伴わない「小さな国境往来」(der kleine Grenzverkehr)があった<sup>(35)</sup>。エーリッヒ・ケストナーの著した『小さな国境往来』(Der kleine Grenzverkehr)は、主人公がドイツ側に宿泊し、バスでザルツブルクの音楽祭に日帰りを通う(Pendeln)様子を記し、まさに、1,000マルクの障壁を現実のものとして描いた<sup>(36)</sup>。

#### 〔追記〕

本稿は、千葉県日独協会新春講演会における報告「ドイツ・オーストリア国境地域における受難劇と観光」(2019年1月19日)の一部に修正・加筆したものである。

#### 注

- (1) 山田〔2015〕、365～371、374ページ。
- (2) HBG, Passionsspiele,
- (3) HBG, Passionsspiele in Bayern Orte
- (4) HBG, Passionsspiele
- (5) HBG, Augsburg 1997 et Prinzer〔1996〕
- (6) Hollaus〔2013〕, p.172 同論文は、フランシスコ修道院の修道士と受難劇上演の関わりを扱っている。
- (7) Erl〔2018〕, p.2
- (8) Dörrer〔1922〕, p. LXXXIX
- (9) PS Erl, Geschichte
- (10) Altötting et (28) SoE, Madonna Altötting Shreines of Europe, Madonna Altötting
- (11) バチカン放送局、「教皇」, 08.10.2018 この説教ミサの全文は、バチカン放送局「ミサ」に掲出されている。
- (12) Tirol ORF, 400 Jahre
- (13) 同書は、インスブルック大学図書館 (Universität Innsbruck Universitäts- und Landesbibliothek Tirol) が公開するデジタル図書館 (Digitale Bibliothek) で見ることができる。
- (14) PS Erl, Chronologie 1933年には村の受難劇の劇場 (das Passionsspielhaus des Ortes) が焼け落ちた。この火災の顛末は、今日でもなお、タブーである。それに加えて、ナチスの千マルクの壁が加わった。1933年5月29日、ドイツ国民がオーストリアの国境を超える際に1,000ライヒスマルクの出国税を支払わなければならなかった。多数のバイエルンの人々は遠ざけられ、エアルの経済が困難に陥った。(Tirol ORF, 400 Jahre) それによる観光への影響については、Mayrhuber〔2010〕が詳しい。
- (15) Tirol ORF, 400 Jahre
- (16) PS Erl, Chronologie
- (17) PS Erl, Chronologie
- (18) PS Erl, Geschichte
- (19) Erl〔2016〕, 2016, p. 6
- (20) Hollaus〔2013〕, p.173
- (21) Statistik Austria (70527)
- (22) Tirol Info, Passionsspiele Thiersee
- (23) PS Thiersee, Chronik
- (24) PS Thiersee, Chronik
- (25) *Tiroler Tageszeitung*, 01.08.2018
- (26) 観光連合クーフシュタイナーラントは、Bad Häring, Ebbs, Erl, Kufstein, Langkampfen, Niederndorf, Biederndorferberg, Schwoich, Thierseeから成り立っている。(Kufsteinerland, Region)

- (27) 山田〔2015〕、374ページ。
- (28) PDE, Hom ホームページの対応言語は、ドイツ語 (deutsch)、英語 (english)、フランス語 (français)、イタリア語 (italiano)、スペイン語もしくはカステイリャ語 (espanol)、カタルーニャ語 (català) である。
- (29) PDE, L'histoire de l'Europassion
- (30) その後、様々な国の自治体が参加することになることから、ラテン語表記「パシオン・ドミニ・エウロペ」(Passion Domini Europe) が公平であるかもしれない。
- (31) PDE, L'histoire de l'Europassion
- (32) 山田〔2015〕、464ページ。オーバーバイエルンとティロル州ロイテ郡の観光の連続性については、山田〔2018〕
- (33) 山田〔2017〕
- (34) Dreier〔1985〕
- (35) Mayrhuber〔2010〕、p.74
- (36) Erich Kästner, *Der kleine Grenzverkehr*, 1937 同書の日本語訳は『一杯のコーヒーから』(小松太郎訳、創元推理文庫)というタイトルで1975年に出版された。

## 参考文献一覧

### 〔統計資料〕

1. Land Tirol〔2013〕: Land Tirol, Statistik Tourisums Tourismusjahr 2013 - Nächtigungen nach den wichtigsten Herkunftsländern, in interrete sub: <https://www.tirol.gv.at/statistik-budget/statistik/tourismus/>, 21.09.2018
2. Land Tirol〔2016〕: Land Tirol, Statistik Tourisums Tourismusjahr 2016 - Nächtigungen nach den wichtigsten Herkunftsländern, in interrete sub: <https://www.tirol.gv.at/statistik-budget/statistik/tourismus/>, 21.09.2018
3. Statistik Austria (70527): Statistik Austria, Einwohnerzahl und Komponenten der Bevölkerungsentwicklung Thiersee (70527)

### 〔文献資料(紙媒体)] 論文

4. Hollaus〔2013〕: Br. Pascal M. Hollaus OFM, Das Spiel von Leiden und Sterben unseres Herrn---Franziskaner und Passionsspiele, in: *Austria Franciscana - Provinzzeitung der Franziskanerprovinz zum hl. Leopld in Österreich und Südtirol*, Nr. 10, 2013
5. Dreier〔1985〕: Werner Dreier, Doppelte Wahrheit: Ein Beitrag zur Geschichte der Tausenmarksperrre, *Vierteljahrsschrift für Geschichte und Gegenwart Vorarlbergs*, Jg. 37, 1985
6. Mayrhuber〔2010〕: Eva Maria Mayrhuber, „Wirtschaftsfaktor Fremdenverkehr. Die Geschichte des österreichischen: Tourismus zwischen Weltwirtschaftskrise und 1.000-Mark-Sperre“, angestrebter akademischer Grad Magistra der Philosophie (Mag. phil.), Wien, im Juli 2010
7. 山田〔2017〕: 山田徹雄「ティロル州と観光」跡見学園女子大学『マネジメント学部紀要』第23号、2017年。
8. 山田〔2018〕: 山田徹雄「ロイテ郡と観光」跡見学園女子大学『マネジメント学部紀要』第25号、2018年。

### 〔文献資料(紙媒体)] 著書

9. Dörrer〔1922〕: Dörrer, Anton, *Das Erler Passionsbuch*, Erl, 1922
10. Prinzer〔1996〕: Pinzer, Beatrix und Egon, *Burgen, Schlösser, Ruinen in Nord- und Osttirol*. Innsbruck, 1996.
11. 山田〔2015〕: 山田徹雄『ドイツ資本主義と観光』日本経済評論社、2015年

### 〔文献資料(紙媒体)] 公的機関刊行物

12. Erl〔2016〕: Gemeinde Erl, *Unser Erl*, 2016
13. Erl〔2018〕: Gemeinde Erl, *Unser Erl*, 2018
14. TZ: *Tiroler Tageszeitung*, 01.08.2018
15. Kufsteinerland〔2017〕: Tourismusverband Kufsteinerland, *Jahresbericht 2017*
16. Kufsteinerland〔2018〕: Tourismusverband Kufsteinerland, *Jahresbericht 2018*

### 〔オンライン情報] ドイツ語

17. Altötting: Altötting, Gottesdienste & Wallfahrten, in interrete sub: <http://www.altoetting.de/cms/gottesdienste-wallfahrten-8.phtml>, 23.09.2018
18. Altötting, Wallfahrt und Tourismus: Altötting, Wallfahrt und Tourismus, in interrete sub: <http://www.altoetting.de/cms/excursions.phtml>, 23.09.2018

19. HBG, Passionsspiele: Haus der Bayerischen Geschichte, Passionsspiele, in interrete sub: <https://www.hdbg.eu/passion/web/index.php>, 15.06.2018
20. HBG, Passionsspiele in Bayern Orte: Haus der Bayerischen Geschichte, Passionspiele in Bayern Orte, in interrete sub: <https://www.hdbg.eu/passion/web/index.php/orte>, 09.06.2018
21. HBG, Augsburg 1997: Haus der Bayerischen Geschichte, Augsburg 1997, Eine Datensammlung des Hauses der Bayerischen Geschichte Spielbeginn vor 1517: Rattenberg - Österreich, in interrete sub: <http://www.hdbg.de/ps/ps266.htm>, 06.07.2018
22. PS Erl, Chronologie: Passionsspiele Erl, Chronologie | Das Passionsspielhaus, in interrete sub: <http://www.passionsspiele.at/ueber-uns/das-passionsspielhaus-2/chronologie-das-passionsspielhaus/>, 19.06.2018
23. PS Erl, Geschichte: Passionsspielverein Erl, Geschichte Die Passionsspiel, in interrete sub: <http://www.passionsspiele.at/geschichte/>, 08.10.2018
24. PS Thiersee, Chronik: Passionsspiele Thiersee, Chronik, in interrete sub: <http://www.passionsspiele-thiersee.at/chronik/>, 29.09.2018
25. PSV Erl, Geschichte: Passionsspielverein Erl, Geschichte Die Passionsspiel, in interrete sub: <http://www.passionsspiele.at/geschichte/>, 08.10.2018
26. Tirol Info, Passionsspiele Thiersee: Tirol Info, Passionsspiele Thiersee, in interrete sub: <https://www.tirol^infos.at/kufstein/passionsspiele.html>, 13.09.2018
27. Tirol ORF, 400 Jahre: Tirol ORF, 400 Jahre Passionsspiele Erl, Publiziert am 18.05.2013, in interrete sub: <http://tirol.orf.at/tv/stories/2584800/>, 05.06.2018
28. Kufsteinerland, Region: Tourismusverband Kufsteinerland, Region, in interrete sub: <https://www.kufstein.com/de/tirol-orte/kufsteinerland.html>, 19.10.2018

〔オンライン情報〕英語

29. SoE, Madonna Altötting: Shreines of Europe, Madonna Altötting, in interrete sub: <http://www.shrines-of-europe.com/de/altoetting/>, 23.09.2018

〔オンライン情報〕フランス語

30. PDE, Home: Passion Domini Europe, Home, in interrete sub: <http://www.europassion.net/>, 22.11.2018
31. PDE, L'histoire: Passion Domini Europe, L'histoire de l'Europassion, in interrete sub: <http://www.europassion.net/>, 21.11.2018
32. PDE, Pays: PassionDomini Europe, Pays / Membres, in interrete sub: <http://www.europassion.net/>, 07.09.2018

〔オンライン情報〕日本語

33. バチカン放送局、「ミサ」: バチカン放送局、「アルトエツティング ミサ説教」, in interrete sub: <http://www.radiovaticana.va/japanese/japomeliapapa0609/japbaviera060911cr.htm>, 08.10.2018
34. バチカン放送局、「教皇」: バチカン放送局、「教皇、バイエルンの聖母巡礼地 アルトエツティングへ」, in interrete sub: <http://www.radiovaticana.va/japanese/japnotizie0609b/japbaviera060911b.htm>, 08.10.2018